



## ～「感動・感涙」の 苗木中合唱祭 ～

校長 小木曾敏樹

11月28日(金)には、多くの保護者の皆様、そして、市議会議員松崎様をはじめ、ご来賓の地域の皆様にも多数お越しいただき、満席になったアートピア付知のホールで、令和7年度の合唱祭を行うことができました。苗木からは車で30～40分間かかる道のりですが、生徒たちがバスで到着するころには、すでに駐車場が満車になり、少し離れたところに駐車していただかなくてはならないほどでした。開場30分前には保護者の皆さんの行列ができ、時間を少し早めて入っていただきましたが、そのころには50メートルほどの行列になっていました。早朝より、寒い中、本当にありがとうございました。

各学級の合唱、そして、学年合唱が、1年生から順に発表されていきました。1年生の合唱は、その上達、成長に感心し、3年生になったらきっとすごい合唱ができるのではないかと、期待が膨らむ立派な合唱でした。2年生の合唱は、声も少し大人になり落ち着いたいい音で、強弱の表現なども工夫されており、上手に仕上げていました。心奪われたのは、2年生の学年合唱です。人数が多くなって、その迫力ある歌声の中に、堂々と歌いきる姿勢や表情の中に、3年生になるんだ、成長し変わっていかうといった決意のようなものを感じてしまい、うかつにも、涙がこぼれてしまいました。



圧巻だったのは、何ととっても3年生です。2クラスとも歌う前からすでに涙があふれ、このステージにかけける想いの強さに、まずは感動させられました。そして合唱・・・、3Aの歌に3Bが涙し、3Bの歌に3Aが涙し、そんな素敵な、最高の合唱と、想いのこもったステージでした。感動にあふれる涙を我慢する気持ちさえ失わせる、そんな2クラスのステージ。さらに追い打ちをかけたのが3年生学年合唱。ライバルであり親友であるこの2クラスが一つになって歌う「結」という曲。自分たちのこの1年間の想いや成長と重なり、とっても心に刺さる合唱。今度は男子も女子も、学年が涙しながら歌う姿に、それでもしっかりと聴かせる歌声に、会場は涙腺崩壊だったと思います。これほどまでに感動が渦巻く合唱祭を、私は見たことがありません。

感動し、いっぱい、いっぱい涙しても、苗木中学校のラストはやはりこれです。全校Dance!! 全校生徒174人中、120人超でのダンス。ステージに上がり切れずに、3班編成で入れ替わり、最後は120人でDance!! ステージと、ステージ下と、通路で踊りラストを飾りました。最後は涙ではなく、とびきりの笑顔を輝かせて、苗木中合唱祭のステージを閉じました。



## ～「新しい苗木中」がまた始まる～

大成功はもう分かっていました。感動ある合唱祭になることも、涙あふれる合唱祭になることも、もう数日前には分かっていました。だって、合唱練習で涙する3年生がいて、それを聞く教員も涙しているのだから。

大切なのは、その涙、その感動は、何なのかということです。

合唱祭への取組が本格的になる時、どの学年もどう取り組むのかということ  
を学級活動で話し合いました。そして、合唱祭までの間に、中間の振り返りをし  
て話し合いました。そこです。その内容と回数です。



3年生で話し合われたことと、1・2年生で交流された意見の質には、違いがあったはずですが、もちろん、想いの熱さも違っていただでしょう。3年生は体育大会への想いをそのまま継続して、途切れることなく合唱祭に繋げています。そして、最後の合唱祭ということへの想いも重なって、今までにない特別な想いで合唱練習に臨んでいました。それをさらに熱いものにしていったのは、お互いの本当の想いを伝え合うことで、クラスが一つになっていったということ。気持ちを隠し続けることもできたでしょう。不安も不満も自分の気持ちをかき消し何もなかった顔をして歌うこともできたでしょう。気付いていても知らん顔をして笑顔でごまかすこともできたでしょう。でも、3年生はそれをしなかった。全ての3年生がそうであったわけではない。今も心の中に眠らせている想いがある人もいます。けれど、勇気を出して自分をさらけ出し、心を覆っていたものを取り去り、心を裸にして仲間にさらけ出した仲間がいて、それを指さし笑うこともなく、しっかりと受け止め、その後に続いて裸になる仲間がいて、どこかで気付かぬうちにすれ違っていた心のすき間を埋め合わせていった。「本音の学活」が、心を一つにしていった。

信じあえる仲間と、心ひとつにして歌う合唱の心地よさ。声の響きが一つになった瞬間に、心の奥底から感動がこみ上げてくる。だから、練習でも涙があふれてしまうんだ。

合唱祭が近くなってきた。3年生は言った。「楽しみだけど、来てほしくない。もう歌えなくなる。このままみんなと歌い続けていたいから。」

伝え合うこと、分かり合うこと、そのために心を裸にしてみることに、裸の心をそのまま受け止めること……。涙を流した分だけ、きっとやさしくなれる。分かり合えた涙は、きっと一人一人を大人にしてくれる。これが、目指す姿です。だから、「新しい苗木中」が、また、始まる。

